

中部圏広域地方計画協議会

日時：平成 27 年 9 月 10 日（木）14:00～16:00

場所：ミッドランドホール

1. 開会

2. 挨拶

（国土交通省：森重国土交通審議官）

- ・本日ご出席の各県・各市町村の皆様方、経済団体の皆様方、関係省庁の皆様方には、国土計画をはじめとした国土交通行政の推進にあたり、様々なご理解・ご支援を頂戴していることを、この場を借り御礼申し上げます。
- ・今日のテーマでもある中部圏の広域地方計画の策定プロセスにおいても、多大なるご尽力を頂戴し、重ねて御礼申し上げます。
- ・去る 8 月 14 日に、今後の日本の 10 年間を展望する国土づくりのあり方を定める新たな全国計画である国土形成計画が閣議決定された。計画の基本コンセプトは、コンパクト＋ネットワークである。それぞれの地域が個性を磨き、地域同士が色々競争を含めて交流することにより、新たな価値や連携による効果を見出していく。そういった対流促進型の国土の形成を目指すという考え方によって策定されたものである。
- ・現在取り組まれている広域地方計画は、全国計画を基本とし中部圏における骨太の圏域構造と、その実現に向けた具体的な取組方針を明らかにしていただくものである。まさに、中部における、コンパクト＋ネットワークの姿と、対流促進型の国土の具体的な中身を明らかにするものだと思う。
- ・留意点、気がついた視点を付け加えると、広域地方計画のミッションというか、どういった役割を持ってつくり、中部圏を引っ張っていくものにしていくかを考えると、全国の中での中部、あるいは世界の中での中部と言ってもいいかもしれないが、中部が果たしていくミッションを皆様と一緒に、考え生み出していく。一体となった目標意識を連携の中で醸成していき、具体的な取組につなげるものである。まさしく、将来を展望した、共通の一体となったミッションをどう絞り出し、提示し、実行に移していくか、といったことが大事ではないか。そういう意味では独自性と言えるかもしれない。
- ・改めて中部のビジョンを考えると、やはり、ものづくりの精神というのは、圏域全体にしっかりと根付いている。例えば、交通関係のものづくりで言えば、自動車、航空機、船舶、鉄道等、交通ひとつとっても様々なものがある。また、文化的な厚みもあるし、様々な暮らしまちづくりに基づくものが、歴史的にも戦後の日本経済を牽引してきた中部の強みではないか。
- ・中部地域の皆様方は柔軟性があり、のびやかな感性をお持ちだと感じている。これから中部共通のビジョンを打ち出し、中部圏を一体となって引っ張り、全国をも引っ張っていただく。そして、世界に出て行く際には、こういった感性を活かしていただいて、まさしく地域一体となった取り組みで、効果を出していただきたい。
- ・もう一つ加えさせて頂ければ、その中でも社会資本整備の役割がある。まさしく、産業の

発展、生活の質の向上にあたり、インフラの持つ意味は大きい。この3月の状況をみても、色んな道路がつながる、新幹線が延びる等、フローではなくストックによって、日本を引っ張っていく効果が発揮されている。それをしっかりと活かし、前に伸ばしていくことが必要である。こういったストック効果を活かして、新たなヒト・モノ・情報・文化の流れを、こういった将来ビジョンに大きな流れとして活かしていただきたい。

- ・国土交通省としても、中部圏の広域地方計画の策定にあたっては、皆様方と共に、しっかりと努力してまいりたいと思う。一体となってしっかりと連携を図っていく所存である。

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・この協議会は、今年3月に第1回目が開かれた。新しい中部圏広域地方計画策定のために、今日2回目にお集まりいただいた。
- ・先月14日に新たな国土形成計画の全国計画が閣議決定され、本格的に動き出すこととなった。
- ・今回の計画のコンセプトはそれぞれの地域が個性を磨き、異なる個性を持つ各地域が連携することにより、イノベーションの創出を促す、また、対流促進型の国土形成を図ることとしている。その実現のため、国土構造として、コンパクト+ネットワークを進めていく。対流、連携、ネットワークといった言葉がキーワードになっている。
- ・8月31日に、中経連主催で、中央日本交流・連携サミットを名古屋市内で開催した。今年は地方創生をテーマとし、各県、市の首長の方々にご出席いただき、意見交換を行った。意見として多く出たのは、地方創生にあたっては、それぞれの地域の特性を活かした施策を展開するとともに、地域間の連携を深めて、地方全体の魅力を高めていくことが必要という話が多く出ていたように思う。
- ・連携の重要性は、本協議会でのテーマでもあると思うが、1つ目として、県境を越えた地域連携がある。2つ目には、産官学の連携がある。さらには、中部圏と北陸圏との連携も考えていく必要がある。これらが、今後の中部圏を形作っていく上で、大変重要な要素ではないか。本日は、このような点について、議論を深めていければと思っている。
- ・中部圏広域地方計画はリニアが開通した際、また、それを越えた30年、50年の長期にわたって、我が国の経済を牽引していくものである。そのためには安全・安心で住みやすく、働きやすい地域で有り続けることが必要ではないか。今回、しっかりと協議をし、計画をつくっていききたい。
- ・本日、ご出席の皆様方においては、それぞれの立場、分野から、忌憚のない意見をお聞かせいただければと思う。有意義な会議となるよう、心から祈念し、お願いを申しあげる。

3. 議事

(1) 新たな国土形成計画（全国計画）～対流促進型国土の形成～について

(国土交通省国土政策局：北本大臣官房審議官)

- ・資料1説明

(2) 新たな中部圏広域地方計画 中間整理（案）について

(事務局：中部圏広域地方計画推進室 大野室長)

- ・ **資料 2**、**資料 3**、**資料 4** 説明

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・ 本日いただきたい意見としては、中間整理案についての意見、また、全国計画並びに中部圏広域地方計画では対流が大きなテーマとなっているが、「地域の個性を磨き連携することで、活力を生み出すことが重要」と考えており、各県・市の県境を越えた地域連携のあり方についてもご意見をいただきたい。

(東海四県町村会：久野飛鳥村長)

- ・ 町村会の代表として出席しているが、町村は様々である。すぐ頭に浮かぶのは、農業関係、生活の支えである農産物をいかに提供していくかということであり、そのためには道が一番大切である。
- ・ 地方へ移っていくつれ、道が細くなっていき、整備が滞っていく。人口が減少していくと、そういった所にまでお金を投入し、整備しないといけないのかという議論が出てきてしまう。しかし、そうではなく、地域と地方が都市と連携をし、お互いに手を組みながら、モノをいかに早く提供するかが重要であり、それはまさに生活そのものである。
- ・ 特に山間地域は、病院へ行く際にも火災が起こった時等にも、道の役割は生活そのものであり、安全性の問題であると考え。中間整理案では、色々なところで表していただいているが、そうしたこともしっかりとお願いをしたい。
- ・ もう一つ、私どもの村の関係もあるが、モノの流れというものがある。空・海・陸がうまくつながっていくこと、いち早く、名古屋港と日本海側でいかに上手くモノが渡りあえるか。早く安全に届けることが、道の役割であると考え。物流の世界がきちんと整備されなければいけない。
- ・ ものづくりにおいて、私どもの関係では、飛行機、ロケットをつくっている。周辺に多くの中小企業が立地しており、その流れが滞ることなく、連携をとりあいながら、道路、空路、鉄路を利用しながら、いかに早く、モノが流れ、1つの形態でもものづくりが出来ていくかが大切なことだと思っている。
- ・ そういった心の中に掲げているものを、もっと細かく的確に表していただくようお願い申し上げたい。絵の描き方は大変立派なのだが、細かなところについて、もう少し意見を取り入れていただければ嬉しい。表面的な言葉だけでなく、実質的な内容の細かさを補填していただければもっとよくなるであろうと思う。

(長野県：太田副知事)

- ・ 新たな広域地方計画の策定にあたり、とりまとめについて感謝を申し上げる。
- ・ 長野県については、これまで、WG、幹事会等で意見を述べており、中間整理案にも概ね反映されている。
- ・ 今後、プロジェクトのフォームの具体的な検討にあたり、長野県からいくつか提案をさせていただきたい。
- ・ 地域連携の必要性については、もちろんコンセプトとして入っているが、中部圏が発展していくためには、ヒト・モノ・情報など様々な分野を活性化し、圏域を越えた交流を重ね

ることが極めて重要だと考えている。

- ・長野県は、中部、北陸、首都圏をつなぐところに位置しており、3圏域の結節の役割も担っている。それぞれの圏域の周辺圏ではなく、この3圏域の中心として、圏域の発展に向けて取り組んで参りたいと考えている。
- ・広域観光交流としては、昇龍道プロジェクトはもちろん、リニア中央新幹線、北陸新幹線の延伸も期待されている。様々な高速交通ネットワークを活用した方針についても、具体的に示していただけたらと思う。
- ・産業面では、既に記載があるがアジア No 1 航空宇宙産業クラスター形成特区があり、これは中部圏の多くの県が指定を受けている。自動車に次ぐリーディング産業としての、航空宇宙産業について、是非、より具体的な取組について記載をお願いしたい。
- ・交通ネットワークの整備の面では、首都圏、北陸圏との結びつきをより強化していく必要があると考えている。既に記載があるが、中部横断自動車道、三遠南信自動車道、中部縦貫自動車道等、東西、南北それぞれの軸があり、中部圏を越えた地域に結びつく重要なプロジェクトとなっている。
- ・リニア中央新幹線の関係では、スーパー・メガリージョンを考えた時にも、その効果を沿線のみならず中部圏全域に活かすことを考えると、中部の中には長野県駅、岐阜県駅が計画されており、隣の山梨県駅も、長野県、静岡県に関係する駅であると考えている。それぞれのリニア駅へのアクセスの向上が重要と考えている。アクセス道路の整備、接続する在来線の利便性の向上等、必要なものを想定し、計画に記載していただければと思う。
- ・全体としては、現在の間接整理案には基本的に賛成であるので、是非このまま進めていただければと思う。

(岐阜県：宗宮清流の国推進部長)

- ・前回も発言したが、改めて広域インフラネットワークの整備についてお願いをさせていただきたい。
- ・岐阜県は県土が広く、企業誘致、産業振興、地方振興など、岐阜県の地方創生を進めるためには、広域インフラネットワークの整備が大変重要と考えている。
- ・岐阜県においては、東海環状自動車道の東回りルートが整備され、多くの企業に沿線に進出していただいた。改めて、東海環状自動車道効果を実感している。中間整理案に東海環状自動車道の西回りルートの整備、東海北陸自動車道の4車線化等の必要性について、言及していただいていることについて、感謝申し上げます。
- ・リニアについては、岐阜県にも駅が出来る。リニア中央新幹線の開業効果を最大限に発揮させていくためには、アクセス道である濃飛横断自動車道などの整備が大変重要だと考えている。これについても、既に言及していただいているが、引き続き、よろしくお願いたい。
- ・広域連携という観点でいくと、この春、北陸新幹線が開通し、北陸に多くの観光客の方が訪れている。特に、岐阜県の飛騨地域を中心に、北陸圏域に来るお客様を飛騨高山、下呂、白川にどのように誘客するかということ、地域と連携して考えているところである。伏木富山港などに寄港するクルーズ船のお客さまも、飛騨地域まで引っ張っていきたくて考えており、北陸圏と連携した、広域観光ルートの構築が大きな課題と考えている。

- ・こうしたことから、広域連携についても、広域インフラネットワークが大変重要であると考えており、岐阜県の最大の関心事でもある。改めて、東海環状自動車道の西回りルート、東海北陸自動車道の4車線化、リニア関連の周辺道路整備について、引き続き、事業進捗を図っていただくようよろしくお願いしたい。

(静岡県：大須賀副知事)

- ・全体的にコンパクト+ネットワーク、連携と対流というキーワードでよくまとめられているという印象である。
- ・前回の会議では、意見を3点申し上げた。安全・安心の確保、自然環境の景観形成という点については、今回の中間整理案でしっかり取り込んでいただいております、感謝したい。
- ・最後の1つとして、先ほど長野県、岐阜県からもインフラ整備の御発言があったが、前回、リニア中央新幹線の南北軸となる三遠南信自動車道や中部横断自動車道などの、高規格幹線道路とのネットワークの形成を、計画としてしっかりと位置付けていただきたいと申し上げた。今回、第3章第2節1(4)で、リニア中央新幹線と東海道新幹線、及び新東名高速道路が南北に高速道路等で連結されることで、高速交通ネットワークを構築すると記載されている。この中間整理案では、高速道路等という表現となっているが、この南北軸は、中部圏では東西と比べると薄いと感じている。中部圏全体のこれからの連携と対流を考えた場合、さらには北陸圏との連携と対流を考えていく上では、これらの道路は死活的に重要な道路であると考えられるので、計画の中に具体的かつ明確に記載していただきたい。
- ・県境を越えた地域連携のあり方だが、静岡県には隣県と接する市町が12ある。これらの地域では、古くから県境関係なく、隣県地域で様々な分野の交流が行われてきている。こうした交流を更に推進していくことが、地域の活性化にとって極めて重要であると思っている。
- ・静岡、愛知、長野の3県にまたがる三遠南信地域では、市町村、商工団体、3県を構成員とする、三遠南信地域連携ビジョン推進会議が設置されており、圏域内の交流促進に向けた取り組みを行っている。
- ・静岡、山梨、神奈川では、毎年3県サミットを開催しており、富士箱根伊豆交流圏構想の推進や火山防災の連携にも取り組んでいる。
- ・さらには、8月27日には、静岡、長野、山梨、新潟で、中央日本四県サミットを開催した。災害時の相互応援協定の締結、「山の日」の制定に向けた山岳観光の推進、移住・定住の促進などに、4県が連携して取り組んでいくことで合意をした。
- ・こうした様々な連携を今後一層深めていくことで、各地域の発展が図られ、ひいては中部圏全体の発展につながっていくと考えている。

(愛知県：石原副知事)

- ・中部広域地方計画の中間整理案だが、そこで示されている将来像、基本方針、具体的方策については、いずれも的確にまとめられており、感謝申し上げます。
- ・第3章の具体的な方策の中で、当地域のものづくりの力をさらに伸ばしながら、リニアによって形成されるスーパー・メガリージョンのセンターとして、我が国の成長を牽引して

いくという方向性が示されているが、本県のビジョンとも合致するものである。中部5県で広域的に取り組むことで一層効果を発揮するものと考えている。

- ・広域的な大都市圏づくりを、愛知県では中京大都市圏として、名古屋を中心とした80km～100km圏で展開していきたいと考えている。こうした方向性も位置付けていただき、大変心強く感じている。
- ・今後の計画づくりに向けて2点申し上げたい。
- ・広域地方計画の意義は、県を越える広域的な観点から、重要な事業をしっかりと推進することであると考えている。その第1が広域の交通基盤である。高速道路など5県の連携基盤となる広域交通ネットワークの整備と、2本目滑走路を始めとする、中部国際空港の機能強化、名古屋港、四日市港等の機能強化など、国際交流基盤の整備も特に重要である。
- ・計画では、こうした取り組みをできる限り具体的に位置付けていくことが必要であると考えている。
- ・中間整理案においても、一定の位置付けがされているが、今後、第4章でとりまとめられるリーディングプロジェクトにおいて、例えば具体的な路線名など、しっかりと位置付けていただきたいと考えている。
- ・伊勢湾の港湾については、本県の意見を踏まえていただき、大幅に記述の充実をさせていただいている。さらに一歩進めて、国際産業戦略港湾として機能強化を図ることを、計画の中でしっかりと位置づけることができれば、大変ありがたい。
- ・広域連携のポイントの2点目としては、産業振興や観光振興である。中部地域においては、アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区や、昇龍道プロジェクトなどについて、全国的に見ても先進的なプロジェクトが着実に進んでいる。今後、広域地方計画を検討する中で、地域をあげて取り組むべき戦略として、効果的なリーディングプロジェクトをしっかりと練り上げていただきたい。
- ・計画の裏付けのもと、個別、具体の事業の推進に貢献し、連携・協力を強めながら、取り組んでまいりたいと考えている。

（三重県：植田副知事）

- ・鈴木県政2期目のスタートとなる今年度は、県の総合計画である「みえ県民力ビジョン・行動計画」の仕上げの年であるとともに、その「第二次行動計画」、「三重県人口ビジョン（仮称）」、「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）」などを策定する重要な年となっている。
- ・来年5月には伊勢志摩でサミットが開催される。皆様には色々のご無理を申し上げると思うが、ご協力、ご支援をお願いしたい。
- ・中部圏広域地方計画については、本年度末策定を目指して取り組んでいただいております、皆様のご尽力に感謝申し上げます。
- ・中間整理案については、本県からも意見を出させていただいております、提案について概ね反映していただいていることから、基本的には概ね了承させていただきたいと考えている。
- ・世界を先導するスーパー・メガリージョンの形成のためには、リニア中央新幹線が大きな役割を果たし、中部圏エリアの発展にとって不可欠な存在であると認識している。
- ・中間整理案においては、リニア中央新幹線の記載が数多くあるものの、名古屋以西の早期

整備については触れられていない。三重県では、名古屋以西の早期整備を進めることが重要であると考えている。本県は中部圏の協議会だけではなく、近畿圏の協議会にも参画している。近畿圏の各府県市や、経済界におけるリニア中央新幹線の大阪延伸の遅れに対する危機感は相当なものであり、多くの構成員からリニア中央新幹線の全線の早期整備に対する意見が出されている。

- 本県としても、JR 東海による2027年の東京-名古屋間の開業、2045年の大阪延伸の予定は承知しているが、スーパー・メガリージョンの実現には、早期の全線整備が不可欠と考えることから、国家プロジェクト的な位置付けのもと、早期実現に向けた取り組みを記載すべきであると考えているので前向きに検討をお願いしたい。整備推進に関する記載が困難であれば、少なくとも地域の課題認識として、名古屋以西の早期整備が必要であるということを盛り込んでいただきたい。
- 次に社会資本整備について、三重県は、中部圏と近畿圏の結節点に位置しており、南海トラフ地震、大規模な風水害の発生など、甚大な被害が危惧されていることから災害に備えたネットワークの多重性、代替性の確保が命綱となっている。圏域を越えたヒト・モノ・カネの新たな流れを生みだし、環状軸、東西軸は元より北陸圏から中部圏を結び、日本海側から太平洋側の紀伊半島に達する南北軸についても広域的、重層的な連携を進めていくことが必要だと考えている。
- リニア中央新幹線の整備と合わせ、道路、港湾等を含めた交通ネットワーク全体を整備し、中部圏の持続的発展につなげていくことが重要であると考えている。
- 本県においては、社会資本整備は、一定の進捗をみているものの、いまだ道半ばであると認識している。例えば、中部圏の国際ゲートウェイとしての、四日市港の機能強化、中部圏の環状軸としての東海環状自動車道、首都圏、中部圏、近畿圏のリダンダンシーの確保、渋滞解消に資する新名神高速道路、紀伊半島への交通利便性向上等を図る近畿自動車道紀勢線の整備、県内では国道1号の北勢バイパスや、23号の中勢バイパスの早期全線供用、名神名阪連絡道路、鈴鹿亀山道路など、広域地方計画の具体的な取組を記述する際にはご配慮いただくとともに、早期の整備についてもお願いしたい。
- 本県は、中部圏と近畿圏の両圏域にまたがっており、近畿自動車道紀勢線の整備促進や、熊野川流域の総合的な管理など、圏域を越えた課題を有していることから、中部地方整備局、近畿地方整備局の双方で調整の上、具体的な記述について配慮いただくようお願いしたい。
- 今回の協議会で中間整理がまとめられた後、本年10月から市町に対する計画提案の手続きが行われると聞いている。広域地方計画については、各市町におかれても、重要な取組であると考えられる。より多くの意見、提案が出されるよう、市町への丁寧な説明と、提案しやすい環境づくりにご尽力いただけるよう、よろしくお願いしたい。

(静岡市：山本副市長)

- 目指すべき将来像、実現に向けた基本方針、非常に幅広い観点から、うまくまとめられている。
- スーパー・メガリージョンのセンターとなっている中部圏という中で、リニア中央新幹線が大きく取り上げられている。静岡市としては、リニア中央新幹線に関して申し上げますと、

市域の最北部、南アルプスの山岳部の地下を10kmほど通過することである。大井川の最上流部に発生土を処理するという事業の計画となっている。南アルプス地域はユネスコエコパークにも登録され、非常に貴重な自然環境を有するところである。今後、事業者と発生土の処理の問題や水環境の保全について協議し、モニタリングをしていくことが必要になる。中間とりまとめで言うと、安心・安全で環境共生の重点を形成していくといった点で、そのような観点も重要になってくるのではないかと。そのような観点についても触れていただけるとありがたい。

- ・ 県境を越えた地域連携については、当市は南北軸ということで、中部横断自動車道が平成29年度には山梨県の中央道までつながる整備が進められており、大変感謝をしている。静岡県と山梨県、甲府市との連携、これは過去から様々な面での交流があるが、広域交通ネットワークの整備に合わせさらなる強化を図っていきたい。観光面や清水港の利便性も大きく向上するので、物流面でも連携強化を図っていきたいと考えている。
- ・ 静岡市は中部圏の中では東の端なので、名古屋からは遠いが、その辺りも是非見ていただければと思う。

(浜松市：星野副市長)

- ・ 本計画の観点として、人口減少や、リニア中央新幹線の開通、防災的なものとして南海トラフを震源とする巨大地震等の自然災害への対応など、将来を見据えながら、時節を踏まえ、しっかりと反映させた計画としてとりまとめられている。
- ・ 中部圏の強みであるものづくりは、浜松市にとっても重要であり、中部圏の各地域においても、非常にいいテーマを持った、非常に時宜を得た適切な形で計画がつくられていると感謝している。せっかくの機会なので何点か申し上げたい。
- ・ 愛知県との境、南北軸と東西軸の交点に浜松市はいるので、そういったことを考え、圏域をより広げるために、精一杯努力していくつもりである。
- ・ 特に、3章以降の地方創生のあたりで非常に効いてくることと、4章のところで具体的にに入れていただきたいのが、本市に事務局を置いている、県境を越えた広域連携のさきがけともいえる三遠南信地域連携ビジョン推進会議の取組であるその中で、実際に、産学官の多様な連携を行っており、例えば、浜松・東三河のライフフォトニクスイノベーション構想など、これは最先端の光電子技術で、天野教授の青色LEDやフォトニクスの基盤でもある。
- ・ 災害時の応援協定として、三遠南信災害時相互応援協定があり27市町村が締結している。現在、具体的な取組も進めており、そういったものが中部圏の広域地方計画の中でどう位置付けられて、これが応援になるような形で進めていただければと思う。
- ・ 最後に、浜松の位置関係を見ると、新東名、東名が東西軸としてしっかり出来てくる。さらに、三遠南信自動車道をできるだけ早く供用して頂き、そうすることにより、リニアの波及効果も確実に太平洋側にも出てくる。ひいては、日本海側と太平洋側がしっかりと連携するという形が見えてくる。その上で、現在の東海道新幹線の利便性向上を活かして、しっかりと太平洋側で、我々が享受できればと思っている。
- ・ そういったことを含め、ハード整備についての格別の配慮をお願いし、浜松市の意見とさせていただきます。

(名古屋市：中田企画調整監)

- ・中間整理案は、バランスよく的確にまとめていただいていると考える。これまでのご尽力に感謝申し上げます。本市からも様々な意見を述べているが、広く意見を反映していただいている。
- ・何点か申し上げたい。1つはスーパー・メガリージョンの関係である。スーパー・メガリージョンのセンターということで、名古屋にとってはリニアが通る名古屋駅をどうするかというのが、非常に大事な課題だと認識している。名古屋としても、一生懸命汗をかかなくてはならない。
- ・スーパーターミナル構想ということで、広域的にリニアの効果を波及するためには、まず、名古屋駅の利便性の向上を図らなければならない。
- ・セントレアとの一体的運用ということで、セントレアへ行くのにわかりやすい名古屋駅にしなければいけない。そういった意味で、道路との連携で言うと、道路ネットワークの結節をどうするかという様々な課題を抱えている。非常に難しい作業だと思っている。国家的プロジェクトだと思っているので、是非、皆様方にもご協力をいただきたい。
- ・スーパー・メガリージョンについては、リニアが出来た時に、東京に飲み込まれるということがないように、名古屋の魅力を高めるなどの取組をしなければならない。
- ・最近市長が名古屋は玄関ではダメだと話している。玄関だとそこを過ぎて行ってしまって、通るだけだろうと。そこに留まることが大事なので、玄関ではいけないということを言っている。我々としても、最終案に向けて玄関でおわらないように知恵を出さないといけないし、皆様の知恵もお借りできればと思っている。
- ・方針5ということで、人材育成と共助社会の形成ということがいわれている。私ども、基礎的自治体として、市民に向き合う行政を目指している。そういう意味で、こういった非常にソフト的なことを書いていただいたのは、本当にありがたい。特に、人材について考えているので、高度人材、グローバルに活躍する人材が大事だというのは、本当にそのとおりだと思う。特に、大学の役割、研究機関との関係が非常に大きいのではないかと思う。ここにもグローバル企業、教育機関、産学官の連携といったことが書いてあるが、本当にいいことだと思う。産業面においても、大学の力は大きい。
- ・概要版のp 5にヘルスケア産業で新型喉頭鏡というものがあるが、これは名古屋市立大学の医学部と芸術工学部の先生（医者とデザイナー）がコラボしてつくったものである。そういう意味でも、大学は非常に大きな役割を果たすと思っているので、そこを入れていただき、感謝申し上げます。

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・多くのご意見ありがとうございました。
- ・様々なお話をいただいた中で、今日の資料のまとめについては、大変よくできているという評価があったが、私も大変うまくまとめていただいていると思う。
- ・連携という点については、それぞれの行政の方々も、既にかなりやっつけいらっしゃる面もあり、十分ご理解されていると思う。
- ・今回、案として出された中間整理だが、今後これをどうやって具体的に実現していくかが、

大きな次の問題だと思う。先ほど、今後はプロジェクトを含めてやっていくという説明があったが、是非、その中でいかに目標を持ってやっていくような、最終的な取りまとめをしていただければと思う。

- ・連携という点については、観光、特にインフラ・道路関係の話が多くあった。インフラをつくったら、それを結果としてどううまく使うかが重要である。ここに、ものづくり、観光、あらゆる産業をどうやって形づくり、地域が目指していくかというのは、そこに我々も連携の必要性があるだろうと思う。ただ、道路をつくっただけでは、人の行き来はできるが、産業が発展するのは人任せということになるので、是非、そういった点で、県を跨いだ連携を取りながら、大きな成果を上げる工夫をお願いしたい。
- ・三遠南信地域では何年も前から取組をやってきており、それぞれの形をつくり、地域の創生に尽くしている。そういったものを、あらゆる場面で、あらゆるところで越えていかなければならない。
- ・産業、文化、あらゆるものが県を跨いで世の中動いているので、是非そういう点で、連携をしなければ成功はあり得ないという強い意識をもって、今後進めていただきたい。
- ・皆様方の連携に対する意欲をさらに高めてほしい。
- ・来年、これが最終的なまとめとして仕上がってくるが、是非そういったところも、強く深く訴えながら、今後具体的に進められる動機付けを是非お願いしたい。

(事務局：中部圏広域地方計画推進室 大野室長)

- ・ご意見をいただき、概ねこの案についてご賛同いただけたと思う。同時に、具体的なインフラ整備等、いくつかの点でご指摘いただいた。プロジェクトの具体的な記述と合わせて今後調整をさせていただきたい。
- ・特に人材という点で書いたのだが、今後、産業を育てていく上で、高度な人材を確保していくのは非常に重要な視点だと思っており、我々もフォローしていきたい。

(事務局：中部地方整備局 森山企画部長)

- ・静岡県からいただいた中で、3点目の南北軸、特に三遠南信自動車道、中部横断自動車道、伊豆縦貫自動車道、そういったものの必要性は書いてあるが、具体的に弱いのではないかということがあった。資料3-2の図には書いてあるが、中部という中で重要な点であるので、今後、成案をつくる中で具体的にどのように書いていくか検討してまいりたい。
- ・三重県からいただいたリニア中央新幹線の名古屋以西であるが、国土形成計画の地方版である広域地方計画は、2050年を見通しながら概ね10年間にやるものという整理をしている。そういった意味では、名古屋以西は方向付けとして、また資料3-2の図の中には大阪を前提に書いてある。ただ、今回、そのあたりがどのように書けるか、成案をつくる上で検討してまいりたい。
- ・静岡市からはリニア開通工事の際の問題点をいただいた。今回、広域地方計画をつくる中で、そういった観点から書けるのか研究しながら考えていきたい。
- ・また、中部横断自動車道、山梨・静岡連携、清水港など、静岡市は立地としては中部圏では東端となるが、当然重要な地域なので、検討して参りたい。
- ・浜松市からいただいた三遠南信地域の連携等、すでに動いていて、具体的な利用という観

点で活動がある。そういったことについて、成案をつくる中で状況見ながら、研究し検討していきたいと考えている。

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・本日いただいた意見は、これからの計画策定に向けて反映していくこととして、本日の新たな中部圏広域地方計画の中間整理についてはご了承いただいたものとしてよいか。

※異議なし

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・了承いただいたものとする。
- ・事務局より今後の手続きについて説明をお願いしたい。

(事務局：中部圏広域地方計画推進室 大野室長)

- ・10月から法定の手続きとして、本日審議をいただいた中部圏広域地方計画の中間整理案について、本省との調整を経た後、皆様と調整を行った上で、市町村に対して計画提案をいただく手続きに入る予定である。
- ・本日説明した内容から、多少修正が生じる可能性があるが、その場合、各機関の事務担当を介してご連絡させていただくが、基本的な修正については、三田会長にご確認いただくことで了承いただければと考えている。

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・事務局からの説明についてご了承ということでよいか。

※異議なし

(会長：中部経済連合会 三田会長)

- ・計画策定に向けて、引き続き構成員の皆様方の協力をお願いしたい。
- ・これで、本日予定されていた議事は全て終了した。皆さまのご協力でスムーズに進んだことを感謝する。

4. 閉会

以上